

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市中熱田区伝馬一丁 10-11

第346号
平成24年8月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



【語意】事々無礙（じじむげ）

華嚴宗の第四祖澄観が唱えた四種の存在領域、「事法界」「理法界」「理事無礙法界」「事事無礙法界」の一つ。事事無礙法界（事象と事象とが妨げなく交流・融合する世界）を究極の世界観とする。

撮影：超空正道

あなたは
わたしがいるから
あなたです

机もペンも
わたしがいるから
机とペンです

大地も
森も川も海も
わたしがいるから
大地であり
森や川や海です

そして
わたしは
あなたがいて
机とペンがあり
雨が降り
太陽が輝き
大地と
森と川と海があるから
わたしです

事々無礙 (じじむげ)

先般、日本も参加している欧州合同原子核研究所 (CERN、セルン) の実験チームによって、万物に質量を与える「ヒッグス粒子」とみられる新しい素粒子が発見された、新聞各紙等で大きく報道されました。

かつては、原子を「アトム」、つまり、分割できないものと名付け、究極の物質と考えていました。しかし、原子は原子核と電子で構成され、その原子核は陽子と中性子に分けられ、さらに、それらはいくつもの性質の異なる素粒子によって成り立っていることを、現代の物理学は証明しています。

この素粒子の研究は、ノーベル賞をとられた湯川秀樹をはじめ、朝永振一郎・小柴昌俊・小林誠・益川敏英、特に、南部陽一郎 (米国籍)

という日本の物理学者の貢献が大きいのだそうです。今回発見されたというヒッグス粒子は、検出が非常にむずかしく、神の存在がとらえにくいことに喩えて「神の粒子」と呼んだ学者もいるとか。ただ、それを捕まえたからといって、宇宙の全体が把握できたとは、とてもいえないそうですが、宇宙創造神の影を踏んづけるくらいのことではできたのでしょうか。

かくのごとく、一口に物質といっても、宇宙全体の成り立ちから、素粒子という捕らえがたいものを捕まえないと理解できないと同じように、人間も、宇宙の中の生物という物質であり、そこには捕らえがたい心が宿り、そういった深淵な宇宙を包含している自己を知るということ、宇宙物理学と、案外似たところがあるのかもしれない

せん。

仏教における宇宙観を説いた経典に、『華嚴経』があります。この経典を本に建てられたのが、奈良の東大寺です。ご本尊である大仏は、毘盧遮那仏で、蓮華蔵世界を現しているとされます。それは、

『梵網経』によると、蓮弁の千葉一つ一つが、それぞれ百億の世界を含む千の世界をなす大蓮華の世界で、毘盧遮那仏は、その中央の台座に坐して、千の化身の釈迦仏を現し、それらが、またそれぞれ百億の化身の釈迦仏を現し出す世界とあります。ですから、大仏の台座の蓮弁には、仏菩薩が、毛彫りによって細かくぎっしり描



かれています。

このような世界観は、大宇宙の中にいくつもの小宇宙があるという銀河世界を連想させますし、表題に掲げました『華嚴経』の中心思想である「**事々無礙**」という考え方は、素粒子物理学に「脈通ずるものがあるように思えます。

仏教でいうところの**空**は、何もないうちののではない、いわば、素粒子のようなものが充満している状態で、条件が調ったとき、**仏教**ではそれを**縁**と呼びますが、**色**(形あるもの)となります。それを「**空即是色**」といい、**縁を失えば「色即是空**」ということになります。

私という人間は、両親との関わり、他人との関わり、家・食物・道具等々、あらゆる事象の縁との関わりによって存在しているのであり、同時に、私は、あらゆる事象に縁を与えつつ、存在しているもの

でもあります。一つの事象は、多くの事象と縁で繋がり、また、見方を変えれば、多くの事象は縁によって、一つの事象を存在せしめています。つまり、「**一即多**」であり「**多即一**」ともいえるのです。

このように、「**色即是空・空即是色**」「**一即多・多即一**」、事象と事象とが妨げることなく、交流し融合しあっているという世界観を「**事々無礙**」といいます。また、事象と事象とが相互に関係しあい、無限に重なりあつて、一体不離であるということから「**重々無尽**」「**相即相入**」ともいいます。

『華嚴経』という經典は、膨大な内容かつ複雑で、釈尊の悟りをそのまま表したものであるといわれています。そのため、舍利弗や目連のようなすぐれた弟子でも理解できなかったと伝えられています。

それを、理解しようというのも無理な話ですが、「**一即多・多即一**」「**事々無礙**」「**重々無尽**」「**相即相入**」、自分の中でこつこつと言葉を繰り返していると、縦横無尽に宇宙を遊ぶ感じがしてくるから不思議です。

私どもは、当然のこととして人であれ物であれ、**自**と**他**は別物のであると思っています。そして、自分を世界の中心に置いて物事を考えますので、その判断は、どうしても**自利**に偏り、時に対立が生まれます。ところが、すべての関係総和の中に自分を置いたとき、世界はがらつと変わります。「**事々無礙**」というこの華嚴の教えは、難解な面はありますが、こじれた人間関係の修復、あるいは自然環境・エネルギーといった問題を考えていく上でも、より良い解決の糸口になるように思います。

お盆の行事お知らせ

◎精霊お迎え

○平和公園墓地 8月12日 午前7時～正午

○潮音寺納骨堂 8月13日 午前7時～正午

◎盆施餓鬼会

8月19日(日) 午後1時30分～2時45分

お彼岸の行事お知らせ

◎彼岸施餓鬼会

9月23日(日) 午後1時30分～2時45分

◎莊嚴(そうごん)

仏教では、しよつごんと発音する。

『広辞苑』

によると、「たつとくおごそかなこと。重々しく立派なこと」とあるが、語源を探ってみるといささか矛盾する点を発見

今月の一言

飾り返しをおそれ 飾り返しを喜び 今日を生きる

かということになる。

となれば、当然のごとく立派で重厚な、ありがたいムードが漂ってくるようなインテリア感覚が必要になる。つまりは、こうして飾り立てた結果の様子を、本来の意味と取り違えてしまったもののようだ。もともと「莊嚴」ムードは、その本体からにじみ出てくるものではな

できるのが面白い。この語は梵語のヴューハ(配置を意味する)とアラ

ンカーラ(飾り)が二つ合わさってできたもの。つまりは仏身、仏具、仏土をどのような飾り立てをし、配置を考えて並べる

く、多分に演出の妙が影響してくるもの。そう考えれば、この語の変わり方は正しいのかもしれない。

(「仏教のことば」ひろこちや監修)

雑記



▼iPhone

ソフトバンク孫社長の「Phone・Padを持っていない人は人生を悔い改めていただきたい」は過言にしても、当方、最近使い始めましたが、なかなか便利がよろしい。

◆号外がスマホに届くパンダの死 沐魚

▼トマト

桃太郎トマトが、それなりに実りました。しかし、味は今一つ。次の期待は、捨てられていた馬鈴薯・薩摩芋・里芋で、収穫が楽しみです。

◆挽きたてのトマト分かつて Tea For Two 沐魚